



白樺は空に向かって立つ

湧雲

第3号

発行・北海道深川西高等学校同窓会
〒074-0012 北海道深川市西町7番31号
TEL 0164-23-2263 FAX 0164-23-2264

同窓生数
16,141名

デザイン・印刷・SALAT(株)サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel:079-284-1380 http://www.salat.co.jp

卒業記念植樹特集号

初事業の卒業記念植樹開催される 卒業記念植樹「期になる樹」

最近、学校林を持つ学校は与えられた環境を教育の場で有効に使い始めています。小中学校は市町村が学校林の保全や管理を行っているようですが、高校が所有するときは道有管理財産となるので深川西高校は昭和38年8月12日に学校から同窓会に名義変更いたしました。この時から同窓会の管理となっていました。(60年記念誌の197頁、198頁に記述) 同窓会林(学校林)の経緯については次回会報にてご紹介をしたいと思います。

考えてみますと願ってもない程の自由な使い道の出来る環境を与えられていますし、利用方法は様々に考えられると思います。諸先輩が苦勞して守り続け同窓生や在校生に引き継がれて現在有るこの環境に感謝しています。「大地にしっかりと根を張って」「枝葉末節」「寄らば大樹の陰」「樹を見ても森を見ず」などなど樹に係わる言葉は数知れずあります。同窓会林が知識の源泉として数学、国語、社会、理科、音楽、体育、英語等の総ての授業に使うことが出来る要素、役割を沢山持つています。

新規事業として、平成22年10月11日に平成23年3月卒業予定の生徒により同窓会林に卒業を記念して「期になる樹」を植樹いたしました。

平成22年の5月から学校側に事業を説明し了解を戴き推進に努めてきました。石見教頭、加藤事務長にはお忙しい中を現地に足を運んでくださり植樹地の確認をして戴き、あわせて同窓会林も確認して戴きました。

「桜の森」からの深川、一己の平野の大展望に感激して戴き、視界の中に学校も確認して戴きました。桜の森から学校が確認出来たと言うことは学校からもピンクに染まった桜の花を見ることが出来るということ。一年でも早くその日が来ることに期待をして戴きました。



記念植樹集合写真

植樹用の木の選定は生徒にお任せすることにして委員会は下準備に入りませう。順次、草刈、植樹の穴の準備、苗木の手配、記念のプレート等々森林組合の配慮も戴きながら当日を迎えることになりました。乗り合わせのバスは大西会長のご配慮。

入手可能な苗木のこともあって、それぞれの樹の特徴を記載した資料を事前に配布し、木は8種類ほどの樹種の中から「カツラ」を選定して戴きました。雄雌が別なこと、春の芽吹きがきれいなこと、秋の紅葉がきれいなこと、樹齢が長いこと、二つの木と同様威風堂々としてることなどから初回の卒業記念植樹にふさわしい選定をして戴きました。

春の桜に対して秋のカツラも又素晴らしい景観を作ってくれるものだと思います。

当日

せっかくの祭日で、しかも朝はやはり苦手からか眠い目をこすりこす



桂の木

りバスに乗り込む生徒たち。手には長靴やらタオル、手袋。揺られること20数分で現地に到着。モヤに煙る中腹。岡部委員長から説明を受け植樹に取り掛かる。楽しそうに作業をしているのを見てホッと安心する。1クラス2本ずつ全部で8本のカツラが植えられました。一同満足。

植樹記念プレート
トを囲んで全員で記念撮影。この頃からモヤが晴れ始め視界も拡がり、生徒たちもやっと目が覚め始めた時間か。

植樹が終了してからすぐ上の石碑のある「桜花爛漫」の展望広場へ向かう。



桜花爛漫 転じて桜の森

満開の「桜の森」を見るまでの道のりは遠い。しかも願っただけで花は咲かない。地道に結果を見極めて積み上げていくしかないのは頭ではわかっていいるのだが、どうにも結果は早く知りたが、一昨秋に鹿に食べられないような大きな桜の木を植えた。



広場からサクラの成木の写真

見える。歓声が沸く。こも一同ご満足。で、下山。

丁度時間もお屋前。関係者と生徒全員がハニーヒルでお食事タイム。ここも楽しいひと時を過ごして戴きました。須藤校長、石見教頭、加藤事務長に引率の先生2名、お休みののに済みませんでした。委員から岡部、成田、竹林、坪田、平田、溝口が参加。初回の事業なのでビデオ記録を10回生の中村義勝さんをお願いを致しました。

今春、立派な芽が吹いていましたし、土地が良いので成長も早いと思います。沖里河山展望台への通り道にありますので直ぐに目に付きます。眺めて戴ければ嬉しく思います。



雪のあるサクラの森

よー」という大西同窓会長の言葉に励まされ、昨秋10本の大きな桜を補植した。

結果、今年のはほとんど桜の木に数輪の花が咲いた。こうして願いが少しずつ叶ってきいているが、1本だけ雪の上の部分の幹をウサギに3分の2程かじられてしまった。この木、今年の夏を越えられるだろうか。

鹿の被害から木を守るためには安価な方法もある。バラ線(鉄条網)を木の周りに巡らすことだった。だがどうにも桜の風情にはふさわしくないし、何よりもスキー場の跡地なので山歩き

の人もいて危険極まりない。だから今後も大木目の桜を植えていくことになるそう。秋には又、数本の桜を植える予定です。又、寒さから木を守るためのコモ巻きは今年からやめてみようかと考えています。



「桜の森」の中を歩けるように遊歩道をつけ、散策しながら桜を見ることが出来るようにする予定ですが、人が歩きやすいと言うことは鹿も歩きやすいと言うことでこちらも躊躇しています。それでも斜面下から遊歩出来るようにと取り付きに雨水を通すための土管を入れました。何とか広場から下の道路に抜けるようにしたいものです。早く大きく育てれば草も刈れるんですが…。専門家によるとこの地は土質が良好なので成長は早そうです。

「桜の森」の看板の背後の林の中に何や

宮脇記念桜の植樹風景

咲いた！鉦路八重の片鱗が見えた

同窓会活動も新しい事業をやるとなると財源的には厳しくなります。会報第1号の中でもそのような意味合いを含んでお願いをした部分もありました。呼びかけにご賛同いただいた皆様のご協力のおかげで事業は一つ又一つと前に進むことが出来ました。

そんな中、同窓会の窮乏に対して宮脇敬氏（高4回生）が熱い思いを届けてくださいました。丁度、学校の桜が老齢木になっていることから樹木の更新を段階的に行う手はずで事業は進んでいました。そこにこの朗報。夢は以前より大きく膨らんできました。



植樹由来のプレート

校舎の東側は松が生えているだけの寂しい空間なので桜はこの空間に植えることにしました。宮脇氏からの力添えを得て植える桜も立派なものにしたいということになり、岡部委員長の提案により北海道で産出した寒さに強い八重桜「鉦路八重」に決定。10月21日早朝、はるばる鉦路から軽トラに積まれた桜の苗木が到着し

ました。3箇所の築山の2箇所に植樹。24日植樹祭を挙げる。残る1箇所に山下市長と大西会長による鉄入れのセレモニーに始まり、深川在住の4期生の両佐藤さんに花を添えていただいた。引き続き



7輪の花
桜の花

修練道場跡地に記念碑建立 除幕式開催される

同窓会林の管理に行く際必ず目に入るのが修練道場の跡地である。昔の登山道はこの道を通っていたので登山道の側に道場が作られた。わずか3年の歴史しか持たない道場ではあるが先輩の中には青春の思い出の片隅におかれている。歴史の彼方に押しやられた修練道場の跡を未来永劫伝えていくために石碑の建立に思い至った。当時の石垣も残っているが崩れかけていることもあって歴史を留めるには石碑以外ない。都合よく岡部委員長の自宅にあった手ごろな石を三上石材で仕上げていただいた。三上石材さんには大変お世話になりました。

10月24日学校での八重桜の植樹に引き続いて山に向かい除幕式を挙げる。当時を知る人は今回1人も居ないが、刻まれた由来文を参加者が目を通しながら想像の昔と現実の今を重ねあわす。当時の秋山幸栄先生の仕事を思い起こしながら…。今回、秋山先生の息子さんの秋山義昭氏の出席をお願いしていましたが病氣療

き運営委員や参加者は代わる代わる桑を入れ、最後に桜と記念のプレートを開んで和気藹々の中で記念撮影をして無事植樹は終了いたしました。記念プレートには「宮脇記念桜」と銘打って末永くご厚意にお応えしたいと思います。こうして鉦路八重は長い冬籠りに入りました。明けて今春、5月20日。鉦路八重は10数輪の花をつけてくれました。来春には更に多くの花をつけてくれることでしょう。希望に燃えて未来を切り開く後輩達や近くを通る町内の方に通るたびに希望と潤いを与え続けることは間違いない。木が大きく育ち、いつまでも桜が咲き続けることを夢見ています。宮脇氏には植樹後に再度のご寄附を賜りました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。校舎前庭の樹木更新や卒業記念植樹等に充当させていただきます。



第68回 同窓会総会開催報告

第六十八回の総会が、五月二十五日プラザホテル板倉にて須藤校長、石見教頭、加藤事務局長と臨席の中、同窓生五十余名が出席して開催された。会長挨拶の後、校長より挨拶をいただく。昨年の生徒進路状況、部活動等々の報告がなされました。引き続き杉山一成さんが議長となり議事進行し、次の議案が審議されました。

- 一、平成二十一年度事業報告及会計報告
- 二、監査報告
- 三、平成二十三年度事業計画及予算案
- ①同窓の集い実行委員会構成の件
- ②緑の学び舎運営委員会事業計画について
- ③同窓会会報の発刊について
- ④その他
- 四、役員改選
- 五、その他

二十一年度に関しては事業報告通り承認された。特別委員会報告は会報掲載。

今年度の事業計画の審議にはいる。今年度も同窓の夕べを開催の承認を得る。実行委員は末尾「四期」で構成いたします。

二十一年度事業の同窓会会報二号的発行は一号の発行時の協力金のご協力をいただいた方のみに送付いたしました。三号はもう一度同



窓生全員に送付し購読の固定化を目指すことで承認をいただきました。一昨年、同窓会に四回生の宮脇敬氏より高額の寄付を賜りました。同窓会で有益に活用するため別会計を開設し学校や同窓会の事業に有効に使わせていただきました。同窓会として大変感謝し感激していただくのですが更に昨年改めてご寄附を賜りました。誌上をお借りして重ねて御礼申し上げます。



緑の学び舎運営委員会については次項の提案どおり承認された。

- ①鹿の被害対策の継続
- ②桜の補植の件
- ③八重桜の「鉋路八重」の維持管理
- ④継続事業として卒業記念植樹を同窓会林において開催すること同窓会、学校の承認をいただく
- ⑤同窓会林の樹木、作業道の適切な管理
- ⑥同窓会林及び修練道場への訪問事業は参加者がいないため今年度も中止しますが単独でも現地がわかりやすいように看板を設置すること

同窓会林の最後に「画像で綴る事業報告」を行った。HPの開設は二十年八月に運用開始。順次内容を充実していくつもりです。同窓生からの懐かしい情報なども寄せられています。又、深川市「深ナビ」のモール情報も継続して掲載していきます。

同窓会林の最後に「画像で綴る事業報告」を行った。HPの開設は二十年八月に運用開始。順次内容を充実していくつもりです。同窓生からの懐かしい情報なども寄せられています。又、深川市「深ナビ」のモール情報も継続して掲載していきます。

新役員紹介

役職	氏名	期	会計幹事	畑博善	23
会長	大西 道祥	17	〃	坪田 邦光	23
副会長	今村 肇弘	17	監事	林 正衛	2
〃	成田 昭彦	18	〃	板倉 克宏	12
〃	宮川 央子	21 新	相談役	平 通明	旧1
〃	寺岡 義人	22	〃	利波 清一	旧3
〃	成田 雅敏	28	〃	渡辺 一義	6
幹事長	溝口 信義	18	校内OB	吉田登美雄	19
副幹事長	木根 和美	21 新	〃	田中 直美	27
〃	大西 祥太	28	顧問		
〃	三上 貴康	32	学校長	須藤 均	
(校内幹事)	吉田登美雄	19	教頭	石見 清孝	
			事務長	加藤 容生	

平成22年度 決算報告

収入の部

項目	金額	備考
前期繰越金	1,337,716	
入会金	225,000	150×1,500円
振替金	150,000	
雑収入	357,378	
合計	2,070,094	

支出の部

項目	金額	備考
総会費	106,410	
役員会費	26,827	
会議費	70,550	
交際費	210,000	饗別・激励
事業費	1,459,733	基金へ、会報、幕
通信費	8,020	
印刷費	2,980	
雑費	5,670	
次期繰越金	179,904	
合計	2,070,094	

深川西高等学校「緑の学舎運営委員会」

〈22年度・事業報告〉

- ◎22. 5.10 隣地境界地籍調査（岡部・溝口・組合3名）
- ◎22. 5.19 学校の植栽下見を兼ねて第三回運営委員会（岡部、平田、坪田、三上、溝口）
- ◎22. 5.20 学校と記念植栽、記念碑。卒業記念植樹について相談（大西会長、岡部、溝口、須藤校長、加藤事務長、係）
- ◎22. 5.23 コモはずし。鹿対策処置園い作業・・・快晴！！（岡部、平田、坪田、大西、成田、佐藤、溝口）3本のうち1本の桜の開花を確認
- ◎22. 6. 2 教頭、事務長植樹地案内
- ◎22. 6.20 添え木倒壊修復作業（岡部、佐藤、松本、溝口）
- ◎22. 7.20 学校との打ち合わせを現地で（岡部、溝口）
- ◎22. 7.21 作業道下見（岡部、溝口、組合は久村、現場は佐々木さん）
- ◎22. 7.22 第1回運営委員会開催・・・深川市議会（岡部、平田、坪田、竹林、三上、溝口）
- ◎22. 7.22 宮脇桜の築山作成作業打ち合わせ・・・道央開発
- ◎22. 8. 5 作業道確認（岡部、溝口・・・現場は佐々木さん）
- ◎22. 8. 8 作業道確認（溝口）間伐作業実施・・・樺でメジロが多く貴重
- ◎22. 9.13 第2回運営委員会・・・深川市議会（岡部、平田、坪田、竹林、三上、溝口）
- ◎22. 9.15 卒業記念植樹・宮脇記念桜・修練道場石碑に関してコトと植林後の現地調査
- ◎22.10.10 卒業記念植樹挙行（岡部、平田、坪田、竹林、三上、成田、大西、溝口）
- ◎22.10.22～25 宮脇記念桜・修練道場石碑事業実施参加者多数。好天に恵まれ無事終了
- ◎22.12.21 第3回運営委員会 プラザ富士屋
- 1、同窓会林の作業道、間伐作業報告
- 水切り排水の管理・・・（5箇所・・・木の葉が）
- 作業道の維持管理・・・部外者対策
- 2、22年度 各種事業の報告と今後について
- ・宮脇記念桜植樹、報告と今後
- 順調に作業が推進できた。宮脇氏からの寄附の追加報告
- 来春作業・・・コモ外し・開花確認
- ・卒業記念植樹の事業、報告と今後
- 事業（選定作業）に早めの着手



新運営委員

- ・同窓会林、修練道場、同窓の泉の今後に関して看板等・散策路整備・銘木ポイントの整備
- ・鹿対策の再確認 現状維持？
- ・校舎前庭の今後の管理 危険木の点検・白樺更新
- ・委員の増員と管理要員の育成
- 継続的に事業が推進できるように手配する
- ・作業用のはしごの作成
- ・備品としてスコップ購入（記念植樹用）
- ・修練道場跡地にシワリザクラ植樹
- ・有刺鉄線を固定する柱を会長から提供してもらう
- ・図面を元に樹木の個別管理を行う
- ◎23. 3. 2 第1回運営委員会 深川市議会
- 新委員紹介 委員に委嘱書の授与
- 23年度の作業予定案内
- ◎23. 4.10 校舎前庭の枝折れ樹木整理（岡部、溝口、堀川、坪田、内村、篠原）
- ◎23. 4.22 桜花爛漫・現地確認とコモはずし（岡部、溝口、森林組合2名）
- ◎23. 6.19 分岐に案内看板、山火事注意の看板取り付け（岡部、平田、竹林、成田、大西、藤井、内村、篠原、溝口）
- ◎随時 校舎前庭のユリノキの防寒、防雪対策実施
- コモはずし

〈23年度・事業計画〉

- 【校舎周辺】
- ◎母校の植栽木の生育、安全等の確認
- ◎老木を更新する予定
- 【記念植樹地】
- ◎宮脇基金による桜の追加と整備
- ◎現地整備 駐車場の確保・植栽周辺の環境整備
- ◎植樹後の管理作業
- 【同窓会林】
- ◎希望者対象の修練道場、湧雲の白樺見学ツアー
- ◎湧雲の泉の管理 ◎間伐地の管理
- ◎学校林の作業道の排水管理
- 【卒業記念植樹】
- ◎第2回の卒業記念植樹（64回生）

緑の学び舎運営委員会

委員長	岡部 誠二	7
副委員長	平田 廣美	6
委員	篠原 有	10 新
〃	内村 丈夫	10 新
〃	堀川 勝之	14 新
〃	坪田 邦光	23
〃	渡邊 純	26 新
〃	竹林 均	27
〃	成田 雅敏	28 新
〃	大西 祥太	28 新
〃	藤井 雅仁	31 新
〃	三上 貴康	32
事務局	溝口 信義	18

各期動向報告

(カッコ内は情報提供者・敬称略)

〈旧中一期〉

八十五歳からの年齢になり、連絡が取れない状況になりました。同窓会名簿のトップの赤川大先輩はお元気です。

〈旧中二期〉 (旧制深中2期会)

平成十四年を最後に同期全員の開催を取りやめとしたが二〇三年ごとに有志で開催していましたが集まれる同期生は二〇三名になりました。様子を見ながら適当に集まっております。(横山 猛)

〈旧中三期〉 (旧制深中3期同期会)

毎年開催。十七年には記念誌を制作。十九、二十、二十一、二十二も九月札幌にて開催。今年も二十四日開催予定。(三浦巧丸)

〈旧中四期〉 (旧制深中4期生)

平成十五年と二十年中島武敏元代議士を囲んで(ふれあい会館)集まる。全体の集まりは高齢の為、開催していません。(前田正太郎)

〈旧中五期〉 (旧制深中5期会)

毎年開催。十五年鎌倉。十六年函館。十七年札幌。十八年美唄。十九年六月深川。十月台湾へ修学旅行。二十年には開校七十周年記念に合わせて式典終了後開催。二十一年以降

深川支部は二九会なので毎年六月二十九日に開催している。

昨年は都合により二十九日開催が出来ず十九日に開催した。参加する顔ぶれも少なくなり寂しさを感じるようになりました。昨年五月には札幌支部の総会も開催され深川からも数名参加しました。(高谷護郎)

〈七期〉 (深西7期同期会)

三年毎に旭川、深川、札幌と持ち回りで開催している。十四年深川で開催、板倉に六十人参加。十七年は五十年を札幌にて八月開催、五十人参加。二十年旭川。今回二十三年は深川開催。(請川公二)

〈八期〉

不定期開催。二十年六月札幌第一ホテルで開催。高齢となり最後の同期会と言うことで六十五名参加。それ以後は各クラスやグループで少人数で開催。二十一年八月深川在住者。九月には札幌で開催した。(大井信之)

〈九期〉

十年深川・十二年旭川・十四年札幌・十六年北竜。十八年東京。毎年開催の意向を受けて十九年秋に定山溪、小樽。十九年三月深川在住者で開催。二十年九月深川開催・「ゆう&ゆ」に四十七名。今年は九月四日 沼田ほろしん温泉にて全体の同期会を開催いたします。他に市内在住者のミニ同期会、パークゴルフの会を開催。(倉嶋克郎)

〈十期〉

五年に一回の開催。十五年六月に四十五周年記念として北広島で開催。以後開催なし。(星野友雄)

〈十一期〉

十二年八月還暦記念を深川で開催、十六年は八月札幌七十名。十八年十月深川で開催。二十年札幌。昨年開催予定がお流れとなり今年には開催する予定を立てています。(山森世津子)

〈十九期〉 (深川西高19期卒業同期会)

五年に一回の開催。十七年旭岳のふもと湧駒別温泉で開催。登山も兼ねた。二十年は「ゆう&ゆ」で還暦同期会を十月開催 (藤川克紀)

〈二十期〉 (深川西高第20期同期会)

四年に一回の夏期五輪開催年に合わせて開催しています。十二年六十名参加(深川ホテル)十六年は八月に開催した。二十年八月深川で開催。東京組は二年毎に開催。全員へ案内は来年の予定です。道内在住者の有志で親睦ゴルフを毎年盛会の中に開催しています。(小川広見)

〈二十一期〉

十四年八月。十八年八月開催。今年は八月十三日深川にて開催します。(梶川 寛)

〈二十二期〉

十二年卒後三十年で開催。参加六十名(日の出)。二十年八月札幌開催。(寺岡義人)

〈二十三期〉

十三年八月に三十年を記念して札幌にて開催。出席者八十余名。今年は卒後四十年なので開催を検討中。(齋田光章)

〈二十四期〉

十四年札幌、十六年六月深川(日の出)にて開催三十五名。十七年六月札幌にて連続開催。二十年六月「まあぶ」にて開催。(江崎 稔)

〈二十五期〉

十四年十一月に札幌にて開催 七十名参加 (佐藤賢治)

〈二十六期〉 (49年卒業同期会)

十六年は卒業三十年で九月札幌にて開催、百名参加 (小林健二)

〈二十七期〉

十六年一月二日開催し七十四名参加。来年

支部報告

旭川支部 総会報告

《参考》

第一回 五十三年一八〇名
第二回 五十五年一二二名
第三回 六十二年一一六名
第四回 平成十三年一二〇名
この後開催がありません。

小樽支部

支部長・秋山会長死去につき後任会長は未確認。

東京支部 総会開催

第十七回総会は十九年九月二十九日開催。当番期は四十九年(26)・五十年(27)卒業期が担当しました。参加者は七十一名。

第十八回総会は二年半ぶりの開催でした。二十二年度六月十九日に開催。当番期は五十一年(28)・五十二年(29)卒業期となりましたが幹事が構成できず今回も五十年(27)が担当しました。若い世代への橋渡しが重要な課題です。参加会員六十五名。(中村欣也)



は津田氏が亡くなったため幹事の確認とれず。

〈二期〉

平成六年岩見沢市、七年滝川市、八年幌新温泉一泊、九年箱根・東京二泊、十年深川市、十一年定山溪温泉、十二年滝川、十三年岩見沢、十四年深川、十五年札幌、十六年滝川、十七年札幌開催を最後に取りやめ。(中村隆志)

〈二期〉

(旧制中学7期・深川西高2期の集い)
毎年秋に開催。東京、札幌、深川持ち回り。十二年は卒業五十年で札幌、十三年はホテル館、十四年は東京、十五年は札幌、十六年は深川。二十年「喜寿の集い」をもって期友の会を打ち上げしました。その後、関東、関西、北海道全域から同志が集まり一泊どまりで温泉旅行を開催二十名参加。今では百八十名居た同期生も百四十名位が出席不可能な状態です。全員今年の誕生日で八十歳で最終サバイバルにさしかかりました。(林 正衛)

〈三期〉

東京は毎年開催。札幌は随時開催。深川は三名ですが元気なし。(島田克之)

〈四期〉

(深川西校第4期生同期会)
札幌が中心になって毎年開催しています。十六年札幌は六月、東京・四葉会は一月に開催。十七年は六月札幌、十八年札幌開催。十九年五月定山溪で、卒業五十年で偶然にも五十五名が参加。二十年六月札幌。昨年の六月「喜寿を祝う同期会」を開催。同期生全員に案内するのは最終回でしたが今年も六月二十日開催いたしました。別欄詳細掲載(佐藤範子)

〈五期〉

不定期開催。

〈六期〉

(西高29会)
深川組は十四名。毎年旅行を実施してきたが最近では昼食会やパークゴルフを行っていません。札幌勢は年に六回集まり、東京勢は年一回集まる。全体での開催は十七年札幌が最後。

〈十二期〉

(西高35年卒同期会)
十三年秋、還暦同期会を開催、参加五十八名。十八年小樽にて開催。昨年六月深川にて開催。会報第二号に詳細掲載済み。(板倉克宏)

〈十三期〉

(三六会・サボロウ会)
平成十年H.P.開設 ML(倉山昭男)
<http://www2.big.or.jp/~yclub/>
<http://www.egroups.co.jp/group/36KAI>
十四年六月還暦記念同期会を開催、板倉。二十年開催。昨年六月秩父別温泉「ゆう&ゆ」で開催。会報二号にて詳細掲載済み。(吉川 保)

〈十四期〉

十六年五月還暦同期会を開催。深川ホテル。二十年二月天人峡パークホテル。一昨年開催。会報二号にて詳細掲載済み。(堀川勝之)

〈十五期〉

(深西38会)
以前は五年毎に開催していたが間隔が狭まった。十年は十一月、十五年は札幌で開催。十七年十月九日開催。十九年九月旭川開催。二十一年十月定山溪グランドホテルで開催。六十三名が出席。次回は二十四年に深川での開催になります。(杉山一成)

〈十六期〉

(深川西高16期卒業同期会)
五年毎に開催。十一年から三年毎の開催にしました。二十年九月開催。今年は開催に向けて準備中です。(星野 孟)

〈十七期〉

(高17期同期会)
十二年に板倉、十七年八月板倉で開催。四年に一回。(濱田靖夫)

〈十八期〉

(猪子会・いのね会)
十七年九月札幌にて開催六十名。二十年十月、富士屋にて開催六十名。東京組は毎年開催で二十年は九月。札幌組は随時集合。深川組は毎年夏、冬と開催している。
今年十月十六日に札幌にて開催します。(深沢倬子)

開催の予定

(中川博行)

〈二十八期〉

(第28期同期会)
三回目となる同期会を十七年八月板倉にて開催。百名を超える参加あり。五年ごとに開催。第四回目の同期会を二十二年八月札幌にて開催。開催詳細は別記。(増永博志)

〈三十一期〉

卒業二十年を十一年に深川で開催。百十名。卒業三十年を記念して二十一年に出席者八十名で開催。(宮沢孝司)

〈三十二期〉

来年一月人生五十年を記念して開催する予定です。(三上貴康)

〈三十四期〉

卒業二十年を十四年に深川で開催。

〈三十五期〉

卒業十五年を十年に深川で開催。(田中一幸)

〈三十六期〉

(深川西高36回生同期会)
卒業二十年で十六年一月板倉にて開催、九十九名参加。

卒業二十五を二十一年一月に開催。本年中に第三回の開催を予定しています。

深川西高校(第三十六期生) 掲示板を開設中です。(渡辺哲男)

〈三十七期〉

十四年に板倉にて開催。

〈三十九期〉

十三年二月、日の出会館で開催参加、四十四名。

〈四十六期〉

今年四月に第一回を板倉にて開催。当初五十名以上の参加申込が東日本大震災の被災地支援の関係から消防、自衛隊など関連に勤務しているメンバーが参加できなくなり四十

滝川北斗会 総会開催

今年二月六日、第四十八回の滝川支部総会が開催された。毎年定期的に開催されていてなかなか盛会。大西会長が山下市長と共に出席。滝川、三浦華園にて。出席会員十二名。

名余の参加となった。

(佐藤自真)

ご協力頂いた期の幹事の方や世話人の方には大変お世話になっております。

例年通りですが、事務局では記載の期以外には把握して居ません。きつと開催しているところもたくさんあるのだろうと思います。情報収集に努めていますし、各期の協力者を採り支援を頂きながら、それぞれの期の動向が今以上に判明するように努力しています。なかなか望みがありません。情報をお寄せ頂ければより充実した会報になるのですが。それぞれの期の幹事の方には最新の情報を総会の案内の返信欄に記載して頂ければありがたいと思います。

同窓の夕べの実行委員会がきっかけで同期会を開催したところもありますから、きつかけを大事にしたいと思っていますので宜しくご協力ください。



愛しの四期生同期会

平成二十二年六月二十日、喜寿を祝う会を定山溪で開催。全体にご案内をお出しする事は今回を最後にする事で意見が一致しましたが、皆それぞれ心残りが大きく、誰とはなしに心一つになり、今年六月二十日には定例になりつつある札幌で再び開催いたしました。

宮脇代表を中心にお世話したお世話役の皆様と、それぞれの家族の守りに支えられな



宮脇代表を囲んで

語っていた友の急逝の知らせに驚きと淋しさを感じ、黄泉に去った友の面影を偲び感慨深くスタート!!



「乾杯!!」を合図に今まで気力、体力の衰えを語っていた言葉は
何処へやら…。一気に弾ける様に腕白、お転婆の昔に戻り興奮の渦、その賑やかな事!!
お開きが近くなる頃には来年のそして傘寿を祝う集いの計画が語られ、再会を約束し素晴らしいお世話役の労をねぎらい、固い握手で四期生の一期一会の集いは盛会のうちに二次会へと流れてゆきます。
お互いの健康と無事を祈り合いながら…。
(記・佐藤範子)

第6期同期会

深川支部総会

6期で29年の卒業なので毎年、6月29日に深川近郊のメンバーが集まることに決めたのが平成10年。以来、旅行会等も開催していましたが現在75、6歳となり高齢者の仲間入りをしたこともあって昼食会とP.G.が主になりました。今年は日の出会館で開催いたしました。会長は高谷護郎が平成18年から担当し、こまめにとりまとめをしていただいています。現在会員は14名です。

から、この頃は常連になった広島、藤沢、東京方面からも北海道在住者も久しぶり。懐かしさを手土産に一病息災、今日ここに出席できた事を喜び感謝し、つい先年、背中をすつきりと伸ばしダンスに興じていた友、静かに若き日を

〈会員の元氣動向報告より〉

高谷護郎会長報告

今年も学校教育支援事業の学習ボランティアとして、滝川市立西小学校に週2回、火曜日と木曜日の2時間(算数の授業)を勤めています。その他に夏は「水泳」2回、冬は「スキー」2回の指導と夏・冬休みの「学習相談」(4回)に行きます。町内会関係では単位町内会と西町連合町内会の「会計」、西地区校下の「安全パトロール」(月2回)などに携わっています。また、健康のためP.G.、登山、旅行、野菜づくりなど、お陰様で有意義な日々を過ごしています。

現在、入院中の方、治療中の方、薬を飲んでいて、現役で頑張っている方、家族の面倒を見ている方など様々ですが、1日も早く健康を取り戻されますことを切に願っています。

高谷支部長さんいつもご苦勞様です。心の行き届いたご案内と29会の運営に敬意と感謝を申し上げます。いつまでも元気でみんなの世話をお願いします。(記・平田廣美)

第28期同期会

昨年、8月21日(土曜日)札幌グランドホテルにて第28期同期会が99人の参加で行われました。

今回は卒業35周年を機としての開催となりました。いままでも10年置きで同期会を行なってきましたが、年齢50才ともなると1人欠け2人欠けと、だんだん寂しくなり、これはイカンと5年毎に改め、幹事も札幌近郊在住と深川近郊在住の当番とし、今回は札幌での開催となりました。

さすがススキノを控えているだけあって前回を上回る参加者。この年齢ともなると担任恩師も6人中4人が鬼籍。2人の恩師に案内申し上げました。が丁寧に断られ、如何に可愛く



楽しい時間は過ぎていく

「OB会紹介」吹奏楽部

2つの「きせき」を胸に

2011年3月27日、第8回定期演奏会が開催されました。卒業も何度か公演を見てきましたが、私は、公演の様子を見るたびに、なんだかほろ苦いような甘酸っぱいような不思議な気持ちになります。

今回の公演で、歌われた「きせき」とくにこの曲では目頭が熱くなり1つの記憶がよみがえってきました。それは顧問である袖城先生があるとき話してくれた、こんな言葉です。

生徒達であつたのかと痛感しましたが、救いの神あり、副担でありました澤村豊先生が昔と変わらぬ元気に出席頂き、集いしおじさんおばさん35年前にすかさず戻り、触れたい・忘れてしまいたい思い出を肴に、今の近況を見栄張りながら語り合い、楽しく愉快に一時を過ごし、次期は5年後深川の地にて誰1人欠ける事無く再会することを約束して、親しき友と嫌がる友と共にススキノの街に各々溶けて行きました。(記・大西祥太)



集合写真

「吹奏楽というのは、場所は取るし、音は大きいし、楽器の費用もかかるんだ。だけど自分たちは、練習ある場所を与えられ、楽器や楽譜も与えられて幸せだよね。それはたくさんの人のおかげであることを忘れてはいけない。」

この曲のタイトルが「ひらがな」であるのには、理由があります。「きせき」には、奇跡と軌跡の2つの意味が込められています。仲間という絆の「奇跡」、音楽という今ここにしかない音を作り上げる「奇跡」…。振り返ると、現役当時や卒業して間もないころは「奇跡」のほうを実感することが多かったように思います。高校3年間はあつたという間であり、もつと見ていくと同じメンバーで

の ら 我

演奏できる期間は1年もないのです。また、演奏を聴いてくれるお客さんがいて初めて舞台は成り立ちます。もちろんお世辞にも上手とは言えない演奏だったかもしれない、それでもその音は何だか暖かく「ここにあの音は永遠ではない、これは、奇跡なんだなあ」と恥

ずかしながらも思っていました。しかし、卒業して数年を経た今、自分は「軌跡」をたどりながら、後輩たちの演奏を聴いているのです。「軌跡」をたどった先に当時の自分たちの姿が重なっていく、何だかそんな感覚になります。この歌を歌い、涙した各代の子どもの「軌跡」がそこにはありました。定期演奏会の前、コンクールの前、卒部の時、合唱をしてみんなで輪になって歌ったことを今でもよく思い出します。そんな時は自然とみんな涙があふれて、いろんな想いを巡らせていたのです。

振り返ると、「きせき」を作詞・作曲したネリベルの代（2003年卒業生）の先輩から吹奏楽曲は大きく変わりました。「私たちもつと、かんばりたいです。」そんな数名の生徒の発言があつてからのこと聞いています。私服と短すぎるスカートから卒業し、現在のグリーンのプレザーのユニフォームを決めたのもこの時です。練習はジャージ姿で行うようになり、ソルフェージュの時間を作り、合唱も歌うようになりました。「ネリベルの代」のように、各代の卒業生をコンクール曲の愛称で呼ぶようになったのもこのころから、そしてコンクールではA編成への挑戦が始まりました。毎年開催していたチャリティーコンサート

は定期演奏会へと名を変えました。外のことを全く知らない私たちは、まず「良いモノ」を知ることが必要と教わり、市内近郊、旭川や札幌でコンサートがあれば見に行こうになりました。そして、旭川商業高校吹奏楽部の見学で私たちの意識は大きく変わることになったのです。

まず驚いたのは、旭商生のその機敏性とおおきな返事。移動時はみんなすばやく無駄がない。合奏ができるまでの準備時間をストップウォッチで測るまで徹底しています。のんびり自由きままに活動していた私たちは大きな衝撃を受けたのです。

それから、全員移動を始めたかと思つたらなんと窓拭きをはじめました。そして私たちも一緒に窓を拭きました。校舎を使わせてもらっていることに感謝する。

そんな、あたりまえといつてしまえばあたりまえのことすら、できていなかった自分たちにショックを受けました。

次に驚いたのは、音。もちろん演奏は上手なのは言うまでもありませんが、それだけではないものがあつたのです。各楽器が音を合わせるチューニングから、その音の違いには驚くほどでした。1度5度3度と音を重ねる、1つの楽器で奏でているようにまとめた音、何の楽器かわからなくなつてしまつた音、何の楽器かわからなくなつてしまつた音の「一体感」「2つの楽器であつた1つの楽器の音を作る」と旭商の先生は言いました。その音は本当にその言葉のままだったのです。

旭商生たちはお互いをニックネームで呼び合つていました。これは、先輩が後輩へと名をつけます。それには、お互いを知つて親しみを持つそんな意味がありました。

「合奏で息を合わせたかつたら、お互いのことをもつと知つていないと。お互いのことをたくさん好きになつて。Aちゃんが好きな食べ物りんごだとか、Bちゃんは実は野球が得意とか。」

そんなことが音楽に関係あるのか、と思ううかもしれません。しかし私たちの音は奏者の

の心や内面によつて敏感に変化するものだと後々実感することになります。

見学が終わわり、ミーティング。私たちは泣きました。自分たちの未熟さに、旭商の生徒たちのいい音を作ることの惜しみない努力の姿を見て、圧倒的な努力の差が、音楽に向き合う姿勢の違い、精神の違いがそこにはありました。

それから、実践です。見てきたものを部員で話し合いながら、できることを始めていきました。まだできていない自分たちを恥ずかしがらずに、スポンジのように良いものを見て聞いて、どんどん吸収していきました。

ソルフェージュでは部員全員が輪になつて、声を出して音を合わせます。2人1組になつて背中をたたき、体をほぐし、おなかに手を当てて腹式呼吸のチェック。そして合唱。手をつなぎ輪になつて手を振り呼吸を合わせ、体を使つて表現します。時には、コミュニケーションとして、クモの巣やフルーツバスケットなどのミニゲームもやりました。必要に応じてミーティングも行います。こうして私たちは、先輩も後輩も含めて正面からぶつかり合うようになったのです。

合奏以外の時間は、楽器のパートごとに自由に練習することが多く、個々の練習が主でしたが、パート練習、木管・金管に分かれての練習、おなじ旋律をやる者同士のパートの垣根を越えた練習も行つていきました。移動はもちろん駆け足、時間の無駄は許されません。黒板に1日のスケジュールを書き、その時間に沿つて練習します。今までと練習にあてて総時間は変わらない、しかし決められた時間を大切に使うようになりました。感謝の気持ちを含めて使つた教室はきちんと清掃する。演奏する曲を決めるときもお客様の目線を考えて、努力しました。

以前は学生たちの間で出ている意見では、「この曲は何度もやっているから、違う曲にしよう」としかし、お客さんにとってはそのなじみの曲だつて、一期一会の曲であつたりするので、1つの曲の完成度を上げるほうが聞

き手にとってはいいのかもしれない。などいろいろな考えを持てるようになりました。不完全ではありますが、「学生たちが好きか？ やりたいか？」という気持ちを一つ超えたような気がした瞬間でした。

高校生活3年間は駆け足であつたという間に過ぎていきます。

この3年間でかけがえない思い出と友を得ました。それと同時にこの3年間で得た「せき」が私の中に根付き、今の私を形作るものとして生きていくように思います。

年を経ることに、地元を離れることになり、就職、結婚など人生の岐路を迎えるたびに、なかなか高校や部活とのかかわりが遠くなつて行つてしまいがちですが、現在も年に1回程度卒業生の交流会を開催しています。

鉄をも溶かす炎を燃やせ。活躍する同窓生紹介

志村 有弘

（むら・くにひろ）

1941年生 深川出身
34年3月卒業（1期生）
日本文藝家協会会員、立教大学卒業、現在相模女子大教授
怪奇文学研究者、説話文学研究者、伝承文学・古典と近代文学の比較研究

【著書】
「陰陽師 安倍晴明」〔江戸怪奇草紙〕（以上、角川書店）
「怪談実録集」〔新編 百物語〕（以上、河出書房新社）
「怪談泉ヶ淵」〔京都異界の旅〕〔平家物語の旅〕〔戦国武将・お江とその時代〕
「山頭火 徹底追跡」〔以上、勉誠出版〕
「神とものけ」〔以上、遊学業書〕 他著作多数

陰陽師・安倍晴明が映画で人気が出たこともあつて代表作は「陰陽師 安倍晴明」。

書評には「雅やかな平安京も、それはうわべだけの屋間の顔。夜ともなれば、都の人の恨みつらみ、妬み嫉みがどろどろと渦巻き、それが怨霊・妖怪・疫病神の姿になつて百鬼夜行する、恐ろしいところなのである。それらを封じることができるのは、陰陽師・安倍晴明。式神をあやつり闇の世界を支配するのみならず、時の権力者に仕え表の世界を支えていた男である。この男

また今回の定期演奏会はOB・OGを交えた演奏会を実現されました。ある意味では以前のチャリティーコンサートのように卒業生を交えた演奏会ならではの良さも感じることができたのではないのでしょうか。

そんな中、卒業生の中で、今現役で活躍する後輩たちをサポートするOB会を組織としてつくり出すという動きが始まつています。私よりも以前に卒業されたOB・OGの先輩方にも部活に対する熱い思いを持つていた方々も多いのではないのでしょうか。新たなOB会によつて、若い世代の卒業生だけではなく、たくさん卒業生の方々のつながりが生まれ、現役生のサポートができたと思ひ、勝手ながらここに書かせていただきました。

2004年卒業生 大井麻衣（旧姓・高根）

は狐の子なのか？どんな奇跡を起こすのか？奇怪な謎に包まれた晴明の真の姿を、史実と伝承を織り交ぜて描く、安倍晴明伝のバイブル」と評されている。

気になるのは「山頭火 徹底追跡」。その文学観、死生観、故郷や父母、酒への想いに迫る多数の論考に、金子兜太、片岡鶴太郎の特別インタビューをあわせる。

山頭火との架空対談や小説、随想もおさめ、多方面からその魅力に迫る充実の一冊。

響け歓声～

第62回 学校祭

「なごり」を感じて

校長 須藤 均

きていたなごりであると言われていて、
とを思い出し、宇宙があたかも生命体で
ある幻想的で壮大な空想の世界へ誘って
くれる。宇宙からこの地をみた「ひと」
の存在や星の間を旅する実態の無い遊泳
感。こんなことを思つて一時を過ごす。
まさに夢見る人となる。無限に広がる空
想世界を、現実が邪魔をする。

今年のコーラ
ス大会の連合課
題曲「COSMOS」の一節「君
の温もりは、宇
宙が燃えていた
遠い時代のなご
り」は、科学や
実際ではどうで
あれ、壮大な空
想を生んでくれ
る。血液の塩分
は、人が海で生

こんなことに何の意味があるのだ。な
ぜそんなに真剣になるのだ。知恵を得た
ものが持つ特権、懷疑主義からの疑問が
わいてくる。それが、夢を壊し文化を滅
ぼし時代を変えてきたこともある。その
正当性はともかく、過去を一蹴すること
や現実を批判することは簡単だ。表現と
して「否定形」にすれば良いのだから。
否定された現実と削ぎ落とされる過去を
消し去ったら、元がどんな存在だったか
さえ判らなくなり、過去を失うと同時に
現実の不確かさと先の見えないことへの
大きな不安となってくる。しかし、その
過程で消そうとしても消えない何かを感
じ、そして知る、「ひと」は突如ここにひ
とりで存在しているのではないというこ
とを。



行灯行進の様子

感性に他ならない。
その「なごり」を感じて、今このとき
を生きてみよう。

校外活動 について

＊吹奏楽が目覚しい活動を続けていて、市内の行事に積極的に
に参加している。OBとの自主事業も含め年間相当の演奏
活動を行っている。活動内容については次号にて紹介致し
ます。



演奏風景

＊美術部が3月に卒業記念展をアートホール東州館にて開催
している。作品は基礎を磨かなければいけない部分が見受
けられ、表現としても稚拙な部分が多い気がする。社会の
流れとして体育系が重視され文化系が取り残されている感
が否めない。残念な事である。

＊3年前西高校の有志が立ち上げた高校生劇団「F.A-muse」
(エフアミューズ)が現在も継続中で3月に中央公民館で自
主公演を行った。今年は揺れる高校生の心を謎めいた物語
の中で熱演、こなれていない部分もあったが魅力は残る。
等身大の高校生役を演じて昨年は札幌でも公演を行なう機
会を与えられ好評を得た。



CLOCK 公演中

第64回北海道高校陸上競技選
手権大会が旭川で開催され、2
年生の松井誠浩選手が8種競

◎松井君 8種競技で
全道2位



V2達成・バドミントン部員

◎バドミントン部V2達成
帯広市で開かれたバドミント
ン全道選手権大会で女子団体
を制しV2を達成しました。公
立高校の全道連覇は三十年ぶ
り。さらに個人戦Wで安藤理奈
選手(三年) 牧野怜奈選手(二
年)ペアと個人戦Sも牧野怜奈
選手が優勝し初の三冠を達成
した。八月十五日から弘前市で
開催されるインターハイでの活躍
が期待されています。他に準優
勝の本田恵利奈選手、大塚葵選
手もインターハイ出場権を獲得し
ました。



平成23年度 高体連・高文連空知支部大会等結果一覧 (全道大会出場一覧)

〔陸上部〕

男子	100m	5位	原 宗一郎 (1年)
	100mH	2位	松井 誠浩 (2年)
		5位	伊藤 均 (1年)
	400m	3位	原 宗一郎 (1年)
	800m	優勝	徳重 雅也 (3年)
	1500m	2位	徳重 雅也 (3年)
	8種競技	優勝	松井 誠浩 (2年)
	4×100mR	4位	河合 裕信 (2年)・原 宗一郎 (1年)
			五十嵐啓紀 (2年)・松井 誠浩 (2年)
	4×400mR	優勝	原 宗一郎 (1年)・徳重 雅也 (3年)
			五十嵐啓紀 (2年)・松井 誠浩 (2年)
女子	100m	4位	鹿角 美月 (2年)
	100mH	優勝	田中 有紀 (3年)
	走幅跳	4位	鹿角 美月 (2年)
	やり投	6位	田中 有紀 (3年)
	円盤投	優勝	佐々木 茜 (3年)
	4×100mR	4位	田中 有紀 (3年)・辻村 美奈 (2年)
			澤田 早希 (3年)・鹿角 美月 (2年)
	4×400mR	3位	鹿角 美月 (2年)・辻村 美奈 (2年)
			北島 亜美 (2年)・佐々木 茜 (3年)

〔女子バレーボール部〕

2位

〔弓道部〕

女子 団体 3位

〔卓球部〕

男子 団体 優勝

男子	シングルス	7位	霜山 亮太 (2年)
男子	ダブルス	2位	青柳 大輝 (2年)・谷 和哉 (2年)
		5位	青木 柊人 (3年)・林 和樹 (3年)
		6位	本瀬 拓斗 (2年)・霜山 亮太 (2年)

〔バドミントン部〕

男子 団体 優勝

男子	シングルス	優勝	清水 勝貴 (3年)
		4位	内山 創平 (2年)
男子	ダブルス	優勝	内山 創平 (2年)・清水 勝貴 (3年)
女子	団体	優勝	
女子	シングルス	優勝	本田恵利奈 (3年)
		2位	牧野 怜奈 (2年)
		3位	安藤 理奈 (3年)
女子	ダブルス	優勝	牧野 怜奈 (2年)・安藤 理奈 (3年)
		2位	大塚 葵 (2年)・本田恵利奈 (3年)
		3位	高瀬 美幸 (3年)・河上 由奈 (1年)

〔放送局〕

テレビドキュメント部門	優秀賞
ラジオドキュメント部門	優秀賞
研究発表部門	優秀賞

平成23年度 全道大会結果一覧

〔陸上部〕

8種競技 2位 松井 誠浩 (2年) [全国大会出場]

〔バドミントン部〕

男子 団体	3位	(北海道)
女子 団体	優勝	
女子 シングルス	優勝	牧野 怜奈 (2年)
女子 ダブルス	優勝	牧野 怜奈 (2年)・安藤 理奈 (3年)
	3位	大塚 葵 (2年)・本田恵利奈 (3年)

〔女子団体・女子シングルス・女子ダブルス (2組) が全国大会出場〕

テーマ

喜 動 愛 楽

～高まる鼓動、

天候が心配されたが初日は屋内行事で問題なく終了し、二日目の午前中は雨ながらも連合演劇などで屋内行事、午後からは雨もすつかり上がり時折青空が見える展開となり、行灯行進も文句なしの状況の中で行われた。昔と違って社会状況も変化して一週間の授業時間が少なくなってきたことから行事内容も様変わりしているように見受けられる。団塊世代から比べると生徒数も半減している静かな行灯行進を見ると元氣は昔の方があつたかもしれない。それでも今の時代に合った「高まる鼓動、響く歓声」を体現していると信じて止まない。

さて、行事は3日間に亘って開催されて



展示・華道部

いる。概ね次の形で進行している。

〔一日目〕

【開祭式】開式宣言、開祭宣言、校歌斉唱、学校長挨拶、総長口上、連合応援団口上、学生の歌、閉式宣言

連合演劇・吹奏楽・アピール・生徒会企画・展示・バザー

〔二日目〕

連合演劇・生徒会企画・行灯行進・フアイヤーストーム・花火・展示・バザー

〔三日目〕

後片付け
【閉祭式】開式宣言、校歌斉唱、学校長挨拶、結果発表・表彰、学生の歌、総長挨拶、閉祭宣言、閉式宣言

バザーは時代背景から食中毒の心配もあつてか衛生管理などの煩わしさから作って販売することはなくなった。しっかりと業者が作った食品を販売する形態に変わって来ている。展示は寂しいけど少ない。発表する、公開するという時代ではないのか人手がないのか。もっと色々挑戦し

て欲しい気もするのだ。連合演劇発表は舞台と云つてもステージをそのまま使用、演技も荒削りながらも話の筋書きは手作りで工夫されていて面白い。今世代の軽い笑いのノリもあり楽しめる。行灯行進は前述の通りだが花園公園はパレードの中間点で休憩所の役割だ。暗闇が迫ってくる頃にフアイヤーストームが始まるが何でも燃やすわけにもいかなし防火上の問題もあつて井桁に積まれた薪の回りにささやかな投げ込みを行っている。すっかり暗くなった頃、夜空に打ち上げられた一筋の光跡は大きく広がりを明くる照らす。花火で楽しかった宴は終えることになる。



連合演劇・2組のカーテンコール



松井君 8種競技で全道2位

技で33人中全道2位となりインハイへの出場を決めました。1日目は100m、走り幅跳び、砲丸投げ(6kg)、400m。2日目は110mH、槍投げ、走り高跳び、1500mとなつていて、7種目を終えて3位につけていた。3位以内ならインハイ進出。最終1500mで最後の力を振り絞って後続を引き離し1位でゴールし出場を決めた。

同窓の夕べ 開催のおしらせ

第十五回「同窓の夕べ」を次の通り開催致します。

日時	平成二十三年九月十七日(土)
開演	午後六時 (吹奏楽部の演奏)
開会	午後六時半
会場	プラザホテル板倉 (深川市三条六番)
会費	二,000円(当日券あります)

実行委員会は十四期、二十四期、三十四期、四十四期、五十四期が担当です。実行委員長は十四期の堀川勝之さんです。同窓生の皆さんには美味しい料理を味わいながら初秋の一時を過ごして頂けたらプラザホテル板倉は同窓生にとって楽しい一時の場所になるでしょう。毎回ジャンケンには盛り上がりが高です。ビンゴに一喜一憂し、他にも楽しいイベントを沢山用意して大勢の同窓生の親睦を深めます。特に未参加の方、又、遠方の方でも都合が付きましてからこの日に日程を合わせて参加して戴けたら嬉しいですよ。

多くの同窓生の参加をお待ちいたしております。

第十四回 同窓の夕べ開催風景

第十四回「同窓の夕べ」が平成二十二年九月四日に参加二二〇名を得て盛大に開催されました。世話人は末尾「3」の期で構成。三十三期水上さんの進行で開始。開会に先立って例年通り吹奏楽の演奏から始まりました。ステージが狭く後輩たちも窮屈そうでしたが、ノリノリでオープニングを飾ってくれました。

佐藤実行委員長の挨拶、大西会長より参加へのお礼、須藤校長よりは学校の近況を若干報告して頂き、旧中三回生の三浦巧丸さんの音頭で乾杯に入りました。毎回のビュッフェ形式のお料理でお腹を満たし美味しいビールでのどを潤し参加者一同満足。

同窓会お名前ビンゴは二十三期、ジャンケンボンは三十三期、お楽しみ抽選会は四十三期がそれぞれ担当して夕べを盛り上げてくれました。

アビールコーナーでは岡部さんから桜の植樹のその後の状況報告がされていよいよ宴も終盤に入り、中井秀夫さん指揮、山岸久仁子さんのピアノ伴奏で全員高らかに校歌を歌いました。

最後の締めでは次期実行委員長・堀川勝之さんの音頭によって盛会の中、夕べは閉会となりました。



会場風景



岡部委員長より
委員会報告



三浦巧丸先輩の乾杯



受付風景



ビンゴ



じゃんけん



締めですが
堀川次期実行委員長



旧中校歌斉唱



抽選会

前回も紹介いたしました下記10周年記念会報から、

昭和23年7月20日発行の創立十周年記念号「会報」

A 5判 40ページ

ガリ版印刷（非売品）

【編集兼発行人】

・道立深川高等学校同窓会 堀井 武
・道立深川高等学校校友会 吉田統伍

【印刷】

・白楊社：岩見沢市五条西一丁目
小西米作

今回は記念会報誌の中に当時の同窓会役員名簿がありましたのでご紹介いたします。ご健在の先輩が何人か居られます。

会 長	堀井 武 (一回生)	〃	栗野 貢一 (三回生)
副会長	齋藤 良一 (一回生)	〃	山本 武 (四回生)
〃	安岡 静治 (二回生)	〃	長谷川正美 (五回生)
幹事長	清水 馨 (一回生)	〃	市橋 常男 (五回生)
幹 事	三浦 直 (一回生)	〃	西田 実 (六回生)
〃	松本 達雄 (二回生)		

支部					
東 京	東出 寛 (一回生)	沼 田 稲垣 貢 (一回生)			
札 幌	伊藤 充 (一回生)	秩父別 植田 純二 (一回生)			
旭 川	樋口 啓治 (一回生)	多度志 福田 勉 (一回生)			
滝 川	朝野 敏夫 (一回生)	妹背牛 戸塚 栄治 (一回生)			
音 江	中出 時人 (一回生)	納 内 副島 正和 (二回生)			
一 巳	土井 弘 (二回生)	雨 龍 五十嵐昭雄 (一回生)			
留 萌	齋藤 徳二 (一回生)	和 浅野 貴 (二回生)			

11回生の宮内慶一氏より古い新聞と文集のご提供を受けました。次回は文集の中身を紹介させていただきます。

古い新聞の中に下記の記事を見つけました。
沼田氏は旧中2回生で卒業後すぐに（23年～38年まで）母校で教鞭をとられました。

＜当時の掲載文を原文のまま＞深川高校新聞・昭和二十八年三月一日発行 第十二号 発行者：村竹徹男 編集人：岩館 登

思い出すまに

沼田一夫

僕たちが当時まだ北空知中学校であったこの学校に向学（？）に燃えて入学した頃は（昭和十四年春）現在の地に新校舎と校門、それに若干の植木があったのみで、全くの水田と何等変わることもなく、現在のグラウンドなどは水田の畦が歴然と残っていたものでした。

当時の僕はまるきりの田舎者で中学に入るとどんなに深い学問を教えてくれるものとかばかり思い込んでいたところが授業は大抵午前中だけ、午後はほとんど毎日と言っているくらい作業（いいうならば土方作業）だった。とにかく時間割に「作業」という時間があったのだ。そこで生徒の間ではうちの学校は「作業学校」だ、などと噂されたものです。初代の校長だった古野先生自ら指導の下に学校の廻りの排水溝掘り、校庭の地ならしから始まり、同時に校地の周囲や前庭に木を植える作業などがすでに僕たちの一年前に入学していた二年生（宮武先生たちのクラス）と交代に、あるいは共に行われていた。夏季休暇なども返上。学校の教室の床にマント一枚ひっつかぶり、リュック枕に泊り込み、グラウンド整備作業を行いました。ですから現在学校の廻りにある大きく成長した樹木はその当時在学していた一・二・三回生の手によって植えられたもので、どこに植えてある樹を見ても、一本一本にそれぞれ苦しみつつも楽しかったこと等の思い出が蘇ってきます。

これは卒業してから初代校長の古野先生のおからお伺いしたのですが、当時父兄から寄附してもらい学校の校地に植えた樹の数が約二千数百本に及ぶとかだそうです。現に今、正面にあるオノコの枯木も一巳村の山奥から二年（冬休みのみ）がかりでさんざん苦労して引つ張ってきたものです。

やはり卒業して何年か過ぎ、再び母校に来てやほり懐かしいのは自分たちで使った教室や机などです。ある教室に入れば自分たちの習っていた頃の授業の光景（特に劇的要素に富んだ授業時間の光景）が頭の中にまざまざと蘇ってくるのです。とにかく僕たちの時代は言うまでもなく全体主義的な時代でしたから学校の教育方針も厳格なスバルタ式。一番やかましいのが敬礼と服装。もちろん、登校中先生に会うと停止して拳手をもち、たくさん生徒が歩いていきるとき、一度ある先生が自転車に乗って景気よく来られたが、道一杯に溢れて歩いていった生徒が一度に全部立ち止まって敬礼をしたため、その先生（現在ある高校の教頭先生）は人間（生徒）との衝突を避けようとして答礼しながら下水の中に落ち込んでしまったことがあった。

又、授業にえられる先生は当時生徒の感覚では「カミサマ」であって、手つ取り早く言えば恐ろしかった。それだけに一時間一時間の授業は真剣なもので、武蔵じゃないが「切るのか切られるのか」といった方がピッタリしている。特に英語や国語や漢文などはばつばつとがられるので予習に泣いたもので、道を歩きながら皆ノートを覗き覗き英文を暗唱したことや、授業中策戦が失敗して大目玉を食ったこと等思い出は次々と蘇ってくるが、与えられた余白が尽きたので、何時か語ることにしよう。

（筆者は本校教員）

母校支援事業

待望のプレス幕作成

全道や全国へ出場するようになると報道の取材の機会もふえてきます。TV等では記者会見のバックに関係団体の幕が張られさりげなく団体のアピールをされていることからも同窓会としてプレス幕の必要性を感じていました。昨年12月、石見教頭の助言を戴いて作成にこぎつきました。デザインに関しては成田雅敏副会長にご判断を



プレス幕のお披露目

して戴きました。同窓会としても満足のいくプレス幕が出来上がったと喜んでいきます。様々な場面で幕の出場機会が増えることを願っています。

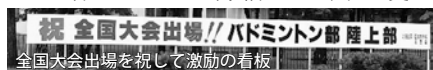
プレス幕の利用は在校生だけではなくあります。同期会開催時のステージに取り付けて利用して戴くことなどは大いに結構です。多くの同窓生のご利用を願っています。

幕は学校に置いてありますので使用目的を告げて学校から借りてください。

在校生の活躍にこたえて

全国大会出場激励看板作成
昨年夏、バドミントン、陸上と全国大会へと歩を進めたことから、健闘を称えて市民への周知とともに選手への更なる活躍を願って、道庁治いの校舎前庭の柵に大きな看板を設置しました。出場した生徒たちも健闘いたしましたので活躍に励まして夏終盤まで掲示いたしました。

今年もバドミントンは全道V2。陸上では8種競技で全道2位。この健闘に励んで横看板を早速掲示いたしました。



創立20周年記念誌・復刻版頒布のお知らせ



(B5判 102ページ) 頒布価格・郵送料込み
1,900円

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。

校歌・学生の歌・逍遙歌のCD頒布のお知らせ

送料込み **1,000円**

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。

口座番号・02770-2-45435 加入者名・北海道深川西高等学校同窓会

再度の資料収集のお願い

次回、開校八十年周年記念を迎えるまでには同窓生のお手元にある在校当時の資料を収集したいと考えています。中でも学校祭やコーラス大会などの行事のプログラム、各クラブや部活の機関紙などです。特に文芸クラブの「うまごやし」などがあると良いですね。

六十年記念誌、七十年記念誌などに資料の明細が出ていますので参考にしてください。どんなものでも構いませんのでお手元に資料がありましたら是非ともご協力をお願いいたします。（資料はコピーをしてお返しいたします。）

同窓会林・ 修練道場近況

現状報告

国の環境問題への転換からCO2削減、森林伐採等などの環境保護推進の風向きが変わってきた。輸入材もラワン材などは姿を消しホーム系の松材もいつまで持つかわからない状況で国内の林業界にも少しは目を向けられるようになってきた。忘れられた山も外資の餌食になる前に幾らかなりとも対応が目に見えてきたし、荒れた山も手を加える必要性を国も理解し始めました。そんな風向きの変わり目にあつて同窓会の山も手を入れることにより資産価値を高める算段に至りました。未来の同窓会のためにも今、手を入れることが必要と判断し、更に自然木の中に将来有望な



自生の桜と岡部委員長

樹種として樺のなかでも最上級のメジロ樺が相当見受けられることから急遽夏に間伐作業することに致しました。同窓会林も一時管理が全くされない時期がありましたが今となってはかえって運が良かったように思われます。お陰様で同窓会から持ち出しをせずに間伐作業を執り行うことが出来ました。

春山から夏山 秋山と季節を変えながら同窓会林を見続けてきました。広い林の中の一部しか見ることは出来ませんが所要所にポイントが散見されて山に入るたびに感動を得ています。既報の通り自生の桜やシウリザクラもあちこちにあり銘木に成りそうな大きな樹もある事から何とか導入路を整備したいというのが今後の推進事業です。



ノビネチドリ

シウリザクラは桜の花が終了して一ヶ月ほどしてから真っ白な総房柔花をつけます。一面に咲きまきと木が踊っているように見えます。材は木目もきれいで桜のように芯腐れがありません。新芽が真っ赤で美しい。苗木のような幼木がかなり散見されることからシウリザクラの森もいいのかと考えています。

●お手紙から
平成13年に開催した「修練道場・同窓会林・湧雲の白樺を巡るツアー」に参加された高校2回生（旧7回）の小田弘一さんからのお手紙をご紹介します。読んでいただきます。



作業道整備中

6月17日修練道場の跡地に立った。色々な憶いが脳裏を駆け巡った。

を道路の分岐に設置しました。この看板の設置で大半の方は迷わずに現地に行くことが出来ると思います。修練道場跡に石碑を設置したことは別記しましたので割愛いたします。春には林道脇には花が咲きそれなりに楽しみも多いうように思います。其のうち自生する花々の調査を進めたいと考えています。



管理風景 間伐作業

湧雲の泉について

何もない崖の根元から滾滾と泉が湧き出ています。はるか上部には湧雲の白樺があることからこの湧水を「湧雲の泉」と名づけ未永く保存をして守っていくことになりました。

手が切れるような冷たさと隅々まで染み渡る美味さが自慢です。一度ご賞味あれ!!



行き先は音江山しかわからない。その山をめがけて木材などを分担して持ったと言うより持たされた中学一年の生徒が必死になって笹藪の中を突き進んだ。着いたときには座り込んでしまった。五十数年前のことだ。このたびは跡地を訪ねるツアーに参加させて頂き大変うれしく思いました。有難うございました。風雪に耐え厳然と聳える白樺の木に神々しささえ感じました。小鳥も競って囀り、ツアアの一行を歓迎しているようでした。

どろやなぎ

(編集後記)

▼今号は卒業記念植樹特集いたしました。初めての事業でしたが今後の展開が楽しみです。何年か先に立ち寄ってくれと嬉しいですね。「期になる木」から「気になる木」になって欲しいものです。

▼会報の発行時に応援していただいた千名を超す同窓生の皆さんに協力して頂いた浄財に若干の余剰金が出来ました。その浄財に同窓会から補填をしなかつた第三号以降は又、皆さんに応援いただかなければ発行出来ません。何卒宜しく協力下さいませようお願いします。申し訳ないのですが通信費が大きいんですよね。ご理解下さい。

▼昨年は過ごしやすいい夏でした。深川も真夏日なし。六月の天候不順、七月の日照不足に夏らしい夏を体験できませんでした。結局、作柄不良で年を終えました。昨年の夏は六月に数回の真夏日を観測しました。ついに空前の暑い夏になりました。が、作柄は思ったほどでなく残念な結果となりました。さて、今年は農家の春作業も遅れ気味でスタート。未だに影響は残っています。秋にならないと結果は出ませんが不安でもあります。

▼三月十一日から日本は変わるかもしれない。と、思っていたのは私だけなの

訃報

同窓会の小樽支部長・秋山義昭氏が白血病のため2011年1月10日68歳で逝去いたしました。行政法の法学者。小樽商科大の第8代目の学長として6年間務められ退任後名誉教授として活躍をしていますが体調を崩され、回復することなく惜しまれながら永久の眠りに就きました。昨年9月の「同窓の夕べ」で元気なお顔を拝見したのが最後でした。

同窓会会報決算書

収入の部

項目	金額	備考
残金	299,968	
合計	299,968	

支出の部

項目	金額	備考
印刷・発送他	356,383	1,049名に送付
合計	356,383	

収入	299,968
支出	356,383
一般会計で補填	-56,415

郷土と共に歩む 北空知新聞社

毎週：水曜・土曜 発行

〒074-0001 深川市一条十一番十六号
Tel 0164-23-5509 Fax 0164-23-5529

【遠方購読】

1,370円(税込)

《購読料(一ヶ月) …1,050円+送料40円×8回》

ではないのだが、何もかもどうも変だ！特に面白おかしく社を席巻しているメディアの責任は大きい。理念と節操がない。情報操作と企業や国民への迎合が見え見えで劇場型もここまで来ると未だ怖い。などとお固いことを言っていたら面白い報道はできないでしょう。

▼これまで独断と偏見で会報発行をしている私も元氣な内はいいいのですがそろそろリスクの分散を図らなければいけません。会報の発行がいつまでも続く事を願って会報委員会を作った方がいいのかも…。是非、進めたいものです。

▼北空知の情報を伝える新聞、北空知新聞社より前号に引き続いて写真を提供して戴きました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



キクサキイチゲ